

KAMOTO HIGH SCHOOL

— 綱領 —

自主自律

進取の気象を涵養する

実質剛健

好学の気風を養成する

師弟同行

敬愛の美風を育成する



校長 瀬口 和弘

視力、聴力、そして言葉さえ失っても、福祉の人として人々の幸せのために尽くしたヘレン・ケラーは、こんな言葉を私たちに残しています。「幸福の一つの扉が閉じられると、別の扉が開く。しかし、私たちは、閉じられた扉をいつまでも見ているために、開いた扉に気付かない。」

中学生の皆さんは、これから慣れ親しんだ多くの物、習慣など生活の全てを大切な「思い出」として自分の中に刻み、古い扉を閉め、新しい自分を生きていくために、いくつもある新しい扉のうち本校の扉を、今、開けようとしていると思います。そして、その扉には、こんな言葉が書かれています。「師弟同行」。すなわち、本校は、自分の夢を実現するために努力を怠らない生徒と、生徒の「大なる明日」を見据えながら、「主役になる」生徒の挑戦を全力で支援する教職員がともに学ぶ学校です。

「主役になる」とは、一人ひとりが、力をつけて伸ばすことです。そのためには、学校生活を楽しむ生徒になって欲しい。鹿高は、希望を持ち、目標を持って、勉強と部活動の両立を目指す生徒がたくさんいる学校です。自主自学の心で生徒たちが学校を楽しく、更なる進化を目指して「師弟同行」でチャレンジしている学校でもあります。鹿高生として、自信と誇りを持ち、新しい学友と共に、夢の実現に向けて努力を続ける「自立した学習者」に成長できる高校です。「何のために学ぶのか」を明確にする教育に力を注ぎ、伸ばしていき、教科の授業以外の学校活動でもあらゆる取り組みを行っています。

ところで、人には思いがけない能力が隠されています。普段はそれに気がつかないでいますが、必要に迫られると姿を見せてくれることがあります。何事も積極的にチャレンジして試してみると、隠されている能力との出会いがあるかもしれません。「未見の我」という言葉があります。皆さんがまだ理解していない自分自身のことを言います。中学生の皆さんが、鹿高で様々な経験を重ね、新たな自分をたくさん見つけて欲しいと願っています。皆さんには、無限の可能性があります。無限の可能性を引き出すためには、将来の自分の姿をイメージし、自分自身で学校生活を楽しむことです。来春、希望に向かって向上心を燃やすたくさんの中学生の皆さんが、鹿高の扉をたたいてくれることを心より願っています。